

令和6年度「課題解決型デジタル活用プロジェクト推進事業」業務  
KPI 達成状況（令和6年度末時点）

令和6(2024)年度 実証事業の進捗と評価

1 ICT 化施設数

(1) 年度目標数値

4 施設

(2) 進捗

達成 [実績：5 施設 令和7(2025)年3月末時点]

(3) 要因

○事前説明会開催による施設側の不安解消

- ・事前の説明会で「あずかるこちゃん」のメリットを提示し、導入時の不安解消に努めた結果、7 施設中 5 施設への円滑な導入が実現した。

2 施設利用率

(1) 年度目標数値

50%

(2) 達成状況

未達成 [実績：44.8% 令和7(2025)年3月末時点]

(3) 要因

① 利用ニーズの減少

- ・令和6(2024)年度は、令和5(2023)年度と比較し、病児保育の利用が全般的に減少傾向であった（全施設の4月～10月期比較：令和5(2023)年度47.0%、令和6(2024)年度42.9%）。
- ・このことから ICT 導入の有無にかかわらず、需要低下の影響があったと考えられる。

② 一部施設の低利用率

- ・一部の ICT 未導入施設の利用率が低く（「病児保育施設きらら」15.5%、「串本町病児・病後児保育室ぽけっと」3.6%）、全体の数値を押し下げた。

- ・「病児保育施設きらら」は、令和 6(2024)年 11 月にサービス内容を病児対応型に転換したばかりであり、認知度不足が要因と考えられる。また、「串本町病児・病後児保育室ぽけっと」は、地域特性(周辺人口や就労状況)の影響を受けていると推察される。

### ③ ICT 導入による利用率の向上

- ・全施設の年間利用率は減少したが、ICT 導入施設の導入後（令和 6(2024)年 11 月～令和 7(2025)年 3 月期）の利用率は、前年同期比で 3.3 ポイント上昇（令和 5(2023)年度 51.2%、令和 6(2024)年度 54.5%）。ICT 導入が利用率の向上に一定の効果があると示唆している。
- ・病児保育の利用は感染症流行状況や就労環境、認知度等に影響されるため、変動がある。しかし、ICT 導入施設において導入後に利用率上昇が見られたことから、今後、未導入施設への導入や「あずかるこちゃん」の認知度向上により、利用増加が期待される。

## 3 KPI 達成状況

### ① ICT 化施設数

	2024 年度 末	2025 年度 末	2026 年度 末
目標	4 施設	7 施設	7 施設
実績	5 施設		

### ② 施設利用率

	2024 年度	2025 年度	2026 年度
目標	50%	56%	58%
実績	44.8%		

## 4 令和 7(2025)年度以降の方向性

### ① ICT 未導入施設への導入促進

- ・オンライン予約による利便性向上は、特に共働き世帯等にとって利用促進の大きな要因となる。今後、予約システムの利便性や業務効率向上の実績を踏まえ、未導入施設への導入を促していく。
- ・また、併せて、操作マニュアル整備やフォローアップ体制強化により、円滑な運用を支援していく。

## ② 広報活動の戦略的展開

- ・ 県、市町村、保育施設が連携し、保育園、SNS、健康診断など、対象に合わせた情報発信を継続的に行うことが求められるため、医療機関や薬局等、効果的な広報活動を実施できる場所の選定、実施時期（年度初め、感染症流行期など）を検討する。
- ・ また、関係団体との連携強化が不可欠であるため、病児保育に関する専門家や地方公共団体向けシンポジウムについても企画・実施していく。